

カフェに国産の陶器を届けたかった

カフェグッズのオリジナル陶磁器である SORRISO シリーズは、全て国内一大産地の美濃で製作しております。第一弾の発売は 2011 年 9 月、前 2 年の海外視察で感じた“違い”に触発されて開発に取り組みました。理由はエスプレッソビバレージの豊かさです。

エスプレッソはイタリアのバールで永く親しまれているコーヒーです。そのバールでもシーンによってカプチーノやカフェラテが楽しめます。それらはエスプレッソにフォームミルクを注ぐというメニューですが、バリスタの構えるカップの角度やカップそのものの形状に深い意味があることを知りました。またシアトルやバンクーバーでは既にエスプレッソビバレージが普及発展しており、ロースタリー系やチェーン店のコーヒーショップが街を豊かに彩り、コーヒーがムーブメントになっていました。そこでもカフェラテやカプチーノが中心であり、バリスタの存在感がとても印象的でした。

しかし探してもその頃の日本ではラテやカプチーノにふさわしいカップが見つからない。使われている多くはイタリアやシアトルからの輸入品だったのです。そこでカフェグッズの考える意匠を産地に持ち込み、共同開発の結果 SORRISO シリーズが誕生しました。

続いて 2012 年 3 月に念願の SORRISO マグカップを発売することができました。これも素直にカフェオーナーのご意見をいただきながら意匠を詰め、完成させることが出来たものです。産地は同じ美濃になります。もちろん安価でお届けできる海外の陶器があることは存じておりますが、市場のご意見をフィードバックし易く、問題点もひざ詰めで解決が可能な国産陶器に拘りました。

こうして自社ブランド品の販売を始めたカフェグッズですが、陶磁器や食器類の取り扱いには未経験でした。お客様の多くはそれらの専門分野に詳しく、取り扱い経験が豊富なルートでの調達が多いでしょう。たくさんの商品の中から、希望する材質や形状、色合いや価格などを検討して採用する。その中で価格の要求を詰めていくと、多くが海外品（主に中国製）になります。それでも使用には問題がなく、時としてチップや破損があってもあまり気にならないと思うのです。



一方、国内の陶磁器産地の多くは、生き残りをかけて苦闘しています。「昔もこんな経験があったな」と思い出したのは割り箸でした。元々日本国内には豊富な森林資源を活用して、重用されてきた箸の産地が各地にあります。日本を代表する一大産地の奈良の五条、美しい杉目の秋田、樺材など汎用割り箸の一大産地である北海道などです。苦い経験は北海道でした。

外食産業に特化した活動の中で、レストラン業態向けの商品では割り箸に注目していました。特に和食業態では高級品が多く、1膳で 4～5 円の箸が使われています。当時取り引きアイテムが少なかった和食チェーンに紹介すべく、取り組んだのが国産の割り箸メーカーです。北海道紋別郡にあった会社でした。話を進める中で一度現地を見学に行きました。紋別空港から迎えの車を飛ばしても 50 分ほどかかります。ほとんど原野に近い国道沿いに、建屋がいくつかあり、ここが割り箸製造の拠点でした。工場に入ると原木から皮を削ぎ、その原木をローターで割り箸の厚みに剥き揃えます。それを断裁して 1 膳の板にしてから、割り目を入れ、最後は人手で削り揃えて完成です。厳しい作業ですが、他に仕事もない現地では、生活の糧として長く頑張っている人が多かったのです。

帰りは旭川空港まで送っていただきました。国道を最高 80km/h で飛ばして 2 時間半ほどかかります。一般道ですからあちらこちらに「野生動物飛び出し注意！」の標識があります。最終便に間に合わせるためかと聞くと、こちらではこれが普通ですとの返事。北海道の広さを今更ながらに知りました。。

これはなんとか販売で協力しなければと思いましたが、そのためには売らなければならない。考えた末に、邪道とも思える作戦を立てました。杉の 8 寸天削箸に袋は和紙三つ折袴の高級品でしたが、コストを半分にする方法を提案しました。それは一度見たことがある元禄天削箸を使うという発想と、和紙を純白紙の裏刷りに代えるというもの。純白紙の濾布面は艶がありますが、裏面はパルプ繊維が見えるのです。本当は避けたかった方法ですが、工場見学の見分が背を押しました。今の元禄箸を天削にするのは、グラインダーで削る手作業が一工程増えます。製造の可否と価格の要望を受け、提案した結果は成功でした。顧客にも喜ばれ、工場にも感謝されましたが、今その工場はありません。現在は北海道野菜などの加工品を製造販売する会社となっています。以前と同じ社名で同じ場所にあります。

どう頑張っても流れを変えられないことがあるでしょう。しかし既に日本の給与水準が決して高くない現実があり、地方産地の疲弊が見過ごせなくなりつつあるときに、「まだ遅くないんだ」、という気持ちを持ち続けたいのです。これがカフェグッズの国産陶器に取り組んでいるポリシーです。なんとか産地を支えたいし、より良い商品をお客様に届けたい。実際に瑞浪の陶器の製造現場に入ると、あの紋別の割り箸工場の厳しかった状況が思い出されます。しかしだからと言ってまだ遅くはない。

SORISSO のマグカップはカフェグッズのオリジナル商品です。チップしにくく強度に優れた素材、カタチの安定感、たっぷり容量、そして冷めにくく飲みやすいボディが特徴です。



少し前ですが、2019 年にメルボルンを再度訪問した時の Proud Mary と St. Ali では、SORISSO マグカップと同型のカップが使われていました。世界的に評価の高いメルボルンで、超繁盛店の Proud Mary と St. ALI。共に存在感が際立つマグカップでした。本当に作ってよかったと思っています。